

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

浮島を回遊散歩し気がつけばすれ違う人自然な笑顔 広崎 瀬戸サイ子
すいすいと湧くごと飛ぶよ赤とんぼ 耕運機 返す畑のめぐりを 安永 守住 孝子
青空に群れて飛び交う赤とんぼ 秋が来たのよしばし佇む 宮園 島 みつき
降り止まぬ秋雨仮設の窓濡らす 亡き夫想う 亡き友想う 小谷 今吉マキ子
腕白と遊んだ昭和よみがえる 村の戸ごとに柿の実たわわ 惣領 鎌田 正吾
誕生日子と孫からの贈り物 黄泉の貴方へ裾分けしたい 寺迫 西坂ヨシ子
下島の海辺に立ちてそよ風に吹かれて眺む崎津天主堂 宮園 金子フム子
南天の葉ごとに宿る雨水は朝日を受けて真珠となりぬ 安永 川野 光子
夕映えの茜の空も暮れかかる亡き姉の愛吾が胸を過ぐ 安永 山下たか子
中秋の月光の下立って聴く 虫のささやき心と和ます 赤井 増岡 伸禧
川沿いを真っ赤に染むる彼岸花育てし人の苦勞尊し 広崎 松原まゆみ

お願い 投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

かなかなの声より昏れてゆく里曲 惣領 鎌田 正吾
栗ごはん供えて拝す七回忌 小谷 今吉マキ子
秋風やふうわり香り香る金木犀 柳水 山本スエ子
秋冷や水面に浮かぶ鴨の秋 広崎 瀬戸サイ子
こがね波みるみる刈りぬコンバイン 惣領 阪口由美子
平成に幾度狂ふ豪雨かな 赤井 増岡 伸禧
山の幸うれし今宵はむかご飯 平田 城 陶子
走る走るひ孫走りて一等賞 木山 山口サツキ
駆け比べ群れて明るし彼岸花 田原 辻ヶ峰子
一句鑑賞
大空を来て水鳥となりにけり 筒井 慶夏

川柳

布田川左門 選

『お題』 月旅行
月旅行長者さましか行けません
これがまあ名月ですかあばた面
月旅行帰ってくるな馬鹿亭主
※参考例
月世界見たい会いたいかがやさま

『お題』 自由詠
少子化と災害襲う大やしま
秋の冷え銀輪走る通学路
新人王獲ってはにかむ十六歳
※参考例
天下無敵 十一歳のオセロ王

川柳のお題 「鴨わたる」

すいすい
八十路の花
将棋の虫

益城の文化財 町文化財保護委員会

益城町 五輪塔「虎ヶ塔」 里帰り

かつて福田寺に所在していた五輪塔「虎ヶ塔」が、現在の所在地である西原村から益城町に里帰りします。

この五輪塔は凝灰岩で造られており、その高さ246センチを測り、県下で最大級であるとされています。文永8(1271)年の銘を持つ、どっしりとした格調の高さを感じさせる五輪塔です。

「薬研彫」で独特な梵字(古代インドの文字で、仏の頭文字)が刻してあり、地輪(最下部の石材)が「アー」、水輪(球状の石材)が「バ」、火輪(笠状の石材)が「ラ」、と読みます。空風輪(最上部の石材)については、風化により摩耗して判読できません。これらの梵字は修行門を表わしています。このことから、かつて福田寺の修行門に